働總同盟職業紹介所内にある（十四年四月以降廢校）。

六、東京勞働學校

大正十四年一月の開校で、同時成立の東京勞働教育會の經營にかゝる。淺草區松清町三九にある。校長は安藤正純氏である。

第三節　關西の部

關西には震災前に於ける大阪の前記三校の外に、大阪以外の諸都市に於て、次の如き六校が、大正十三年中に新設された。

一、岡山勞働學校

大正十三年一月二十五日に開校式を擧げた。校長は太田敏兄氏である。

二、神戸勞働學校

大正十三年四月の創立で、勞働文化協會の經營にかゝる。校長は久留弘三氏である。

三、京都勞働學校

大正十三年四月の開校であつて、總同盟系である。

四、尼崎勞働學校

大正十三年四月十五日の開校である。總同盟系である。

五、堺勞働學校

大正十三年四月の創立で、總同盟系である。

六、神戸勞働學校

大正十三年五月の創立で、總同盟系である。前出の勞働文化協會經營のものとは同名異校である。

第四章　結論

以上私は簡單乍ら、日本に於ける勞働學校の發達とその現況に就いて述ぶるところがあつたが、其は極めて長足の進歩を、短日月の間に爲したものであると云つても良いのである。

さて同じく勞働學校と云つても、その色彩に於て、その經營主體の異るに從つて、多少の相違あることは想像し得ることであつて、其は其々の學校の經營主體は勿論、講師の顔振れや、學科の配置などを考察することに於て知ることを得るのであるが、今はそれ等に就ての詳しき記述をなし得ざるを惜しむのみである。尙又、前出勞働學校以外に、其に近き補習學校（例へば三輪學院、信愛學院の如き）も相當にあるが、玆には其等にまでは述べ及ばない。また一般技術教育や、工場附設事業としての徒弟教育の如きも、勿論言ひ及ばない。

最後に一言すべきことは、未だ勞働政黨すらなき我國に於て、斯くの如くに勞働學校が存在することは、試に心强き感を與へるものである。吾人は將來日本の勞働運動が、如何に合理化されるかを、此等勞働學校の機能に期待するであらう。

第三編　勞働學校の諸問題

第一章　勞働學校の使命

一

『學校を有するものに將來がある』(“He who has the school has the future.”)とは英國のボールが、其の小著『獨立勞働階級教育』の卷頭に載したところの言である。まことに産業革命の先進國たる英國に於ては、既に勞働黨內閣をも出現せしめたのであつて、勞働教育に於ては最も進歩せる國の一と見ることが出來る。

勞農ロシアは、所謂プロレツトカルトの本場である、即ち無産階級の教化は最も力が込められてゐる。革命前に於ける國民の六割が、純全たる無學文盲者であつたと云はれてゐたロシアが、却つて今では、教育に於ける一新機軸を出したわけである。即ち無産階級への教育の機會均等と、教育費が國家財政の支出に於ける第一位を占めてゐることは、等しく非難者のなき所である。

然し此は勞農政府の教育の實際であるが、それ以前、即ち帝政時代に於ける勞働教育は、殆ん

ど顧みられて居なかつた。尤も國外亡命者の間には、二三さうした企圖もあつた樣であるが、それとても永續したものは一つもなかつたのである。

此に反して、英國に於ては、勞働教育は極めて實際的に良く行はれ來つてゐるのである。即ち英國に於ける勞働者階級は、ブルジョア的教育機關を尻目にかけ乍ら、最高の知的教養を享受したのである。かくてこそ勞働黨內閣も出來得た次第であつた。

二

平和的に且つ合法的に政權の中心に勞働黨がなつた所の英國に於ける勞働教育は、たしかに一瞥を與へるの價値があると思ふ。私は玆にコールによる極めて要約された大英國の勞働教育の起原、發達、及び現況に關する記述を引用しやう。彼は云ふ、

『セツトルメントや、勞働者大學や、大學擴張講義や、成人學校などによる勞働階級の教育は、既に早くより試みられて居たが、眞に勞働者によつて管理され支配さるゝ教育運動は、比較的最近のことに屬する。而して右の如き要求は、速かに增加しつゝあるに依つて、近き將來に於て、

さうした機關が大いに發展するだらう。而して勞働運動は此の點に於ける責務を實感しつゝある。現存の主要機關は、牛津のラスキン・カレヂと、倫敦のレバー・カレヂ(勞働大學)の二つである。而してレバー・カレヂの方は、全國鐵道從業員組合と、南ウエールス坑夫聯合會との合同所有である。』

即ち英國に於ける勞働教育は、最早や、勞働者自身による獨立的勞働教育が進步した形に於て行はれて居る。勞働黨內閣の成立の如き、又故なきに非ずであらう。

三

コールの言ふ所に依れば、ラスキン大學を除いては、凡ての勞働教育機關が、態度に於て、秀れたるマルクス主義者であるとされてゐる。而してレバー・カレヂは、急進分子がラスキン・カレヂから派生して生れたものである。即ちラスキン大學は右翼であり、勞働大學は左翼である。

尙ほ英國には『勞働者教育協會』と『プレツブス・リーグ』(庶民聯盟)の二大勞働教育團體

がある。前者は無黨派で無宗派である。此に對して後者は批判的に『我々は卒直ではあるが公平ではない』と云ふモットオを持つてゐる。而して此等の勞働教育團體は全國至る所に、可なり多くの勞働學校を經營しつゝあるのである。

またロシアに於ては、現在、マルクス大學、ジノビエフ大學、スエルドロフ大學などの如き有力なる勞農教育機關があり、米國にはランド社會科學々校を初めとして所々に勞働大學が設立されてゐる。其他歐米各國とも、相當に勞働教育運動の見るべきものを有してゐる。

四

さて然らば我國に於ける勞働學校の狀態は如何と云ふに、所謂勞働學校なるものゝ出來たのは、大正十年であつて、此の年、東京に『中央勞働學院』、『日本勞働學校』などが生れたのであつた。而して震災後に於ては特に此の方面の運動が著しく發達し、現在では東京及び關西に於て、各々七八校づゝを有する有樣である。而して今後ますゝ〳〵勞働教育運動は、我國に於て發達すべき傾向にあると思ふ。

五

今や我國に於いても、おくればせ乍ら、普通選擧制が實施さるゝの機運になり、且又勞働組合法の制定をも實際化せんとしつゝあるのである。而して勞働政黨の組織も、近き將來に於て實現さるゝものと考へざるを得ないのである。

勞働教育運動は、勞働運動一般の中に於て、最も根本的な、最も合理的な、基礎的運動であると思ふ。私は我國に於ける社會改造の將來が如何に進展し、如何なる形態を取るかを豫斷し得ないが、勞働教育が勞働勢力を導く原導力を形成するであらうことは、前に述べたボールの言葉、即ち『勞働を有するものが、將來を持つ』なる言葉によつても暗示されてゐると思ふ。たゞ我等は、常に我々の周圍の諸事情、即ち我國の國民性や、產業狀態や、其他一般の社會環境の現實の考察に敏にして、他方に高遠なる理想の討究と共への道を踏みはずさゞる樣にせねばならないのである。

全く勞働教育は、勞働自治への道に於て、常に思惟と活動との源泉である。即ち勞働學校に於

ける教育の使命は、勞働自治の合法化であつて、今後の新しき社會生活の原理を指示するものであらねばならぬ。

第二章　勞働學校の目的と經營

第一節　その目的

『わかり易く云へば、勞働階級教育は、資本主義の終末と新社會秩序の建設とを目的とせねばならぬ』とはホラビンの言ふところである(Horrabin, Working-Class Education, London, 1924 p. 72)。此れ英國に於ける左翼派の代表的意見である。

然し右翼派の目指すところは、必ずしも左樣ではない。即ち現存社會狀態の下に於いて、その僅少なる餘暇時間を利用して、勞働者の智的向上を圖らしめんとするのであつて、その教育精神の基調に於いて前者と若干色彩を異にする。

而して此の二つの種別は、明かに到るところの勞働教育運動に於て、發見し得るものである。

第二節　その方法

さて、若しも勞働階級教育の主要目的が、資本主義に對する階級闘爭に於て勞働者を援助するものであるならば、此の目的が實現されるであらうところの一般的方法は、次の如き四大要目に分類され得るだらう。(Horrabin, op. cit., pp, 75—83)。

(一) 勞働運動の下士卒に對する初等教育。此れは廣く且つ正味の諸事實及び諸原理の正確な了解を與へることを目的とする。

此の初等教育の基礎は、凡ての勞働教育と同樣に、歴史であるだらう。特に勞働組合主義史や、近世勞働階級運動史や、及び近世資本主義(帝國主義、國際問題等)の發達であるだらう。その外に經濟學、經濟地理、心理學などが必要である。

要するに、その主要なる任務は、次の三つの問題に答へることに存する。

第一、一階級としての勞働者の現在の地位は何であるか。

第二、如何にして且つ何故それが左樣なつたか。

第三、如何にして、勞働者はそれを廢止するか。

(二) 少數者に對する高等教育。

然しヨリ進んで勉强する人々は、全勞働者の中の、ホンの小部分の人である。それ等の人々に對する高等教育は、やがて新しき勞働學校教師を作ることである。

此の高等教育に於ける學科課程は、より進んだ理論的なものであつて良い。即ち理論經濟學、論理學などを課し、また實用的な雄辯法を課するも良い。

(三) 教師の養成。

勞働學校も矢張り學校である以上、所謂教師が要る。その教師の資格としては、先づ第一に、少くとも斯方面の理解ある人たることは勿論である。而して其の理解の程度に應じて、色々の色彩を生ずるのである。

現存の勞働學校の教師を、その學歴の上から分けるならば、

一、官公私立大學の出身者。

二、專門學校の出身者。

三、其 他。

であり、また職業の上から見るならば、

一、大學の教職にあるもの。
二、官公署又は會社等に勤務せるもの。
三、社會事業家。
四、著述家、新聞雜誌記者、及び自由職業者。
五、勞働組合の指導者。
六、專任の教師（チューター）。

などであらう。

然し、勞働學校が發展すれば、必然的に、勞働學校には其れ自體の教師が必要である。普通の商業學校で經濟學を教へてゐる教師を連れて來て、勞働學校で經濟學を受持たしめたならば、其れは明かに失敗である。何故なら、その教師は、商業學校に於いて、如何にして多くの利得を得んかの問題を、將來商人たらんとする青年と共に語つて來たのだから、次ぎに勞働學校に於いて、勞働學生との研究に於いて、如何にして資本主義的經濟組織を廢止せんかの問題の考察に於いては、感情的に既に教師自身ヂレンマに陷らざるを得ないからである。

此れは僅かに一例たるに過ぎないが、勞働教師は、官公私立の大學の教師は未だしもだが、商事會社に勤めてゐる人々では、到底駄目であらう。最も良いのは、勞働團體關係の專門の教師である。然し仲々適當な人が得られない場合が多い。故に教師の養成は、大いに必要なことである。特に地方などの研究會などを司會する適任者などを多く作らねばならない。勞働教育は、かくて、勞働教師の養成から初むべきである。

（四）勞働組合の幹部の養成。

勞働組合運動には、少くとも中心的に働く若干の有能なる人々が絶對に必要である。勞働教育は、それ等の所謂『幹部』を作る任務があることは、多言を要すまい。そのための特殊なる科目としては、勞働組合法、產業立法史、諸外國の勞働組合、行政法、簿記などである。

第三節　その科目

勞働學校に於いては、勞働者の日常生活に最も實際的に必要な科目を課すべきである。左黨に於いて階級鬪爭を高調し、右黨に於いては成人教育に止まらうとする。然し少くとも勞働學校は、

所謂補習學校でもなければ、單なる大學の延長でもないことだけは、常に忘れてはならないと思ふ。社會科學及び勞働科學が中心となることは云ふまでもなからう。

第四節　その經費

勞働學校の經費は、甚だ心細いものである。何處でも發達の最初に於いては、特志家の寄附に待つより外に方法がなかつたやうである。然し今日に於いては、英國に於ける如く、右黨は公共團體の支持を受け、左黨は純然たる勞働團體の管轄下にあるが如くに至つた。而して授業料を徵收する事は必要だと思ふ。

第五節　その他の諸問題

その他の諸問題の中には、教科書を如何にすべきかの問題があるが、必ずしも教科書を用ふる必要はないと思ふ。然し簡單な要領書きの如きものを與へることは絶對に必要であらう。

それから教科書も、追々は採用さるゝ方が良いと思ふ。即ち既刊書の中から適當なものを撰擇

したり、又は新に刊行したりするのである。ノートの筆記主義は良くない。また勞働學校には必ず勞働圖書館を附設したいものである。

次に教室の問題である。特別に勞働學校の校舍を所有することは、勿論理想ではあるが、然し初めから左樣には行かない場合が多い。その時には、

一、小學校、中學校、其他の學校の教室を借用すること

二、寺院、教會、其他の會館の室を借用すること

三、其他の適當なる設備の利用

四、セツトルメントの利用

などによつて、目的を達すべきである。

勞働組合の研究會は、今後は次第に勞働學校化すべきであると思ふ。少くとも勞働學級化すべきであると思ふ。

尙ほ其他にも幾多の問題はあらうが、大體は以上で觸れた心算である。要するに今後益々組織的な此種の運動が盛んならんことを期待せずには居られない。

最近關西に於いて、勞働學校の聯盟が出來たやうであるが、此の傾向は大いに良いものと思ふ。將來は各地方に於ける、產業中心地には、是非、勞働教育機關を常設せしめたい。而して全國的聯盟への道を踏みたいと思ふ。

附錄

倫敦に勞働大學を訪ふ

圓谷弘

『勞働者の天下は一朝にしてなるものではない』と云ふ考のもとに、獨逸に於ても佛蘭西に於ても、勞働運動の隱れた基礎たる教育の方面に絕へず注意の眼を向けてゐた私は、獨佛に於ては豫期に反したので、淡い失望を懷ゐて英國に來たのである。時恰も英國有史以來の破天荒たる勞働內閣成つて……、『今日は何日もの寢坊にも似合はず、お早いこと』とクスグツタイお世辭に送られて宿を飛び出した。時は正に九時過ぎであつた。それは兼ねて約束してゐた勞働大學への參觀だ。――此の間だF氏より教へられた勞働大學を訪ね私の希望を述ぶると、其れでは御通知致しませうからとの親切な氣輕な挨拶を受けて歸つたが――今日は其の通知に接したのである。初夏の天氣は何んとなく、曇り勝ちで道行くバスも氣重もである。

◇

學校は『勞働大學』の文字も注意しなければ判らない樣な小標札で、一見何れかの住宅かと思はれる程度のもので、確か五階建ての肩をならべてゐる他の住宅と少しも變りはなく、日本などでは學校と云ふものは何程かの空地を有するか立派な門構へを有するものであるが、その概念から出發すると一寸アテが違ふ。聞く所に依れば、もと住宅であつたものを學校にしたのだとか。

前におなちみになつて居るので、通知の御禮を言はない前に、早や『お早やふ、ようこそ御出で』とムンヅと手を握られた。如才なく、飾のなく、モツタイ振らない點は、如何にも勞働大學の秘書であると頷かれた。

丁度講義が始まる時分と見えて、學生は上から降りて來た。秘書は『此から演習が始りますから、どうぞ教室へ』と云ひも終らぬ中に學生は早や先頭に立つて案内してゐる。此の演習の時間は特に私の指定して依頼した時間である。普通の講義では學生の氣分や講師と學生の空氣を味はふに困難であるからである。元來演習は何處でも參觀人なぞに見す可きものでもなければ、また見らるゝのは厭ふものであるが、秘書の厚意と講師並に學生諸君の親切によつて、特に東方の國よりの使に見學を許して呉れたのは今更感謝に堪へない。

◇

間もなく教室は學生に依つて滿された。中に一人の女學生も混つてゐる。服裝の如きもネクタイの無いもの、汚れた服、破れたズボンの人もあつて、如何にも勞働學生氣分だ。斯る中に理想

に生きてゐるユトリをさへ偲ぶを得るのは嬉しい。聞けば此等の學生は此處に來る前は皆職工として働ゐて居たので、其の勞働組合から選ばれて勞働界の戰士として、はた參謀として養成さる可く、組合から派遣されてゐる少壯有爲の勞働學生であるとか。而して『勞働階級の文化は其の質に於て現代文明の支配者たる資本階級とは異つたものであり、また異つた文化でなければならぬ!』との前提から出發して全國鐵道從業員組合及び南ウエールス坑夫聯合會の二つの勞働組合が協力して、資本家階級に依存せざる大學を經營してゐるのが實に此の勞働大學である（一九〇九年創立）。從つて總ての經費は、勞働組合に於て支辨せられるのである。斯る意氣と抱負のもとに成り立ち、且つ綿々として續いてゐるのが、此の勞働大學であり、勞働大學生である。

◇

『之れから演習に入ります。本日はB君の番です。B君、論讀を――』よく見ると之れが先生なのだ。ネクタイは横に曲り、兩手はポケツトに無雜作に、後にやつた髪は亂れがちで、呑氣な態度ではあるが、學的鋭さの眼は、如何にも勞働大學の先生としての相應しさを感ぜしめた。

『英國産業革命は抑も機械の發明に其の端を發して……』と讀み續づけてゐる。努力の論文を

先生の前、學友の前に披瀝するので、得意と誇りの色さへ見へる。本論に入つては早や紅潮さへ彼の双頰に表れてゐる。英國紳士の傳統を其のまゝ受けつぎしが如き此の若き學生は、髪はキレーに梳り、カラーも眞白に、ネクタイも流行物を用ひてゐる。一句々々に句切りながら、タイプライターに打たせた論文のページは、其れから其れへと捲くられて行く。其間他の學生は或はノートを採り、或は腕をこまぬき、緊張と靜けさを以て聽いてゐる。先生は時折り手帳に何か書きつけてゐる。東南よりの太陽の光線はやんはりと窓硝子を通じて室を温めてゐる。學びの庭にのみ占有される落付きの中に、意氣のあるユトリのある氣分が、遺憾なく此の室に滿ち〳〵てゐる。

斯る雰圍氣の中にB君の論讀が終ると、一名の女學生が、

『B君に伺ひます。産業革命を單に機械の發明とのみ結論して、精神的要素を述べないのは如何なる理由ですか？』と鋭く突いた。斯くして質問應答は幾度か繰り返された。そして最後に講師は其れを批判して此の時間は終つた。其間其の質問と答辯の間に於て、別に激するでもなければ議論の爲に議論するでもなく、若き勞働學生の研究的態度は、東方の大學の學生よりも、より訓練されて居り、紳士的でもある。而かも其の論文の内容も、隨分と努力されたものであつた。之れ

が昨日までハンマーを握つてゐた人達とは、どうしてもウナズかれなかつた。思ひは我學生の談論の場合と對比することによつて、大なる教訓を學ばざるを得なかつたと共に、英國の勞働者が天下をとつたのも理由あり、歴史ある事と云はねばならぬと感じた。又よし勞働内閣が倒るゝとも勞働者の未來は、他國よりは數歩も遙かに進んでゐることは云ふまでもなからう、と同時に英國勞働者の前途を祝福せざるを得ないのであつた。勞働大學生の前途の祝福と其の奮闘！　世界の視線は、君等にそゝがれてゐる。幸多かれよ！　我が愛する勞働大學生よ、と互に別れの握手も特に緊張味を感じた。

（附記）尚ほ私は牛津のラスキン大學をも參觀したが、その時は、相憎く休暇中であつたので、學生の現狀を見るを得なかつたのは遺憾であつた。

文　献

勞働學校の研究に關する文献は、我國に於ては、今迄餘りに多く現れたとは云へないが、大戰後に至つて出版された勞働問題乃至社會問題の研究書には、勞働者教育及び勞働學校のことが、多少に拘らず論ぜらるるに至つてゐる。例へば、

米田庄太郎博士『現代社會問題の社會學的考察』

永井亨博士『社會政策綱領』(二八四―二八八頁)

安井英二氏『勞働運動の研究』(一〇五―八頁)

佐野學氏『鬪爭によりて解放へ』

赤松克麿氏『勞働組合運動』(一一四―七頁)

平林初之輔氏『無產階級の文化』

などの諸著に於て此を見ることが出來るのである。(勿論その方法乃至立場には相違があるが)。

而して次に特に勞働者教育のみを取扱つた文献として、單行のものとしては、僅かに次の二種ぐ

らゐのものであつた。即ち

山田敏一氏『歐米勞働教育』(大正十一年刊)

社會思想社『英露二國に於ける勞働者教育』(大正十二年刊、社會思想社パンフレット第二號、英國の部分は平河六郎氏が嘗つて『社會思想』の大正十二年二月及三月號に載せたもの、また露西亞の部分は嘉治隆一氏が大正十一年十一月號の『經濟資料』に載せたもの)。

の二つである。(尙ほ大原社會問題研究所パンフレット第五冊には『獨逸に於ける勞働大學の先驅』なる一文がある)。然るに震災後は此の方面に急速なる發達を見るに至り、雜誌『社會思想』や『マルクス主義』には貴重なる資料が登載さるゝに至つた。前者の方は最初の中は日本のことが主であつたが、次第に國際的な消息が報ぜらるゝに至つた。(筆者は平貞藏氏である)。また後者には隨時海外のマルクス主義的勞働者教育の理論と實際とが載せられてゐる。而して多くの新聞雜誌にも、此の方面の記事が現れるに至つた。その主たるものを擧ぐるならば、

平貞藏氏『東京に於ける勞働學校』(『法政大學報』大正十三年十月號)

松下芳男氏『我國勞働者教育の概觀』(『法律及び政治』大正十四年二月號)

中西伊之助氏『我國に於ける勞働教育の失敗』(『社會主義研究』大正十四年三月號)

拙稿『勞働教育瑣言』(『日本大學新聞』大正十三年四月廿日號)

拙稿『日本の勞働學校、その發達と現狀』(『教友新聞』大正十四年一月一日及十日號)

などである。而して大正十四年『勞働年鑑』(日本勞働總同盟、產業勞働調査所共編)にも『勞働者教育運動』なる一章があつて、我國の共を記載してゐる(筆者は木村盛氏とのこと)。また東京市社會局は『我國に於ける勞働學校』なる單行の調査パンフレットを出してゐる。(大正十四年二月)。是く一般の氣運が向ひ來り居るにも拘はらず、別に未だ纒つた文献は出てゐないやうである。唯だ仲曾根源和氏は『勞農露西亞新教育の研究』(大正十四年刊)に於て、勞農新教育を論じ、高柳松一郎博士は『英米に於ける勞働者餘暇利用法』(大正十四年五月)に於いて、若干勞働者教育に觸れたるに過ぎない。故に私の此の小著も、是かる文献の乏しき今日に於ては、研究家及び實際家に取つて、多少の手引たり得るものなることを疑はぬ。

而して本書は以上の諸文献に負ふところ多き外に、日本の部に於いては、直接各機關の實地調査及び趣意書、規則、ビラ、其他新聞雜誌などに據るところ多い。

次に外國の部に關する文献としては、主として次の如きを參照した。

Cole, The British Labour Movement, 1922.

Woodworth, Christian Socialism, 1903.

Gleason, Worker's Education, 1921.

Gillman, The Workers and Education, (London: George Allen and Unwin Ltd.)

Mansbridge, A., University tutorial class: a study of the development of higher education among working men and women, 914.

—— Adventure in Working-Class Education. b ing the Story of the W. E. A.. 1903—1915, London, 1920.

Eden and Cedar Paul, Independent Working Class Education Thoughts and Suggestions, London, 1918

—— Proletcult (Pr letarian Cu'ture), London, 1921.

Price, The Story of the Worker's Educational Association

Horrabin, Working-Class Education, London, 1924.

Ru.kin College, Oxford, Prospectus and Curriculum (1924—5).

Ruskin College, Oxford, May 1924.

Ruskin College, Oxford, The Correspondence Deparsm:nt.

Le Musée social (Février 1907).

Co-operative Education Pamphlets, Co-operative Union Limited, Manchester.

The Labour College, Curriculum, May, 1922.

The National Council of Labour Colleges; History, Report, and Directory, 1924.

What is the Pleb; League?

"The Plebs" (The Organ of Indendent Wo:king Class Edncation), Plebs League.

Lunacharski, Self-Education of the Workers.

Education and Art in Soviet Russia, with a Forewo.d by Marx Eastman, The Socialist Publication Society, New York.

大正十四年七月廿五日印刷
大正十四年七月廿八日發行

定價金壹圓參拾錢

著者 淺野研眞

東京市芝區三田一丁目二十番地
發行者 甲斐田イヨ

東京市芝區櫻川町二番地
印刷者 近藤喜七

發行所 振替東京四一八二番 東京市芝區三田一〇丁目 三田書房

不許複製

290
45

83

終